

アルペンルートで
北アルプス 立山

5/3~5/6

剣岳の 周辺を滑る

メンバー 菅沼 小森 菅田 石垣
西川 手塚

5月3日

登山者で混雑する大町駅からバスで扇沢へ向う。更にケーブルカー、バス、ロープウェイと乗継いで、さすが(金)ルートと金のかかるのに感心しながら室堂に着く。登山者やスキーヤーで賑わう中、真砂岳へ向う。シュプールだらけの雷鳥沢や、何本かのシュプールを残す山崎カールを見ながら夏道の尾根を登る。頂上から、だだっ広い内蔵助谷の上部カールに滑り込む。その内、沢も狭くなり、デブリの散乱する沢も重荷に苦勞しながら内蔵助平へ滑り込んだ。ハシゴ谷を越え、湿雪の沢を剣沢へ向け滑る。真砂沢ロッジ付近はテント村といった感じであった。1760m対岸の台地上で、4月末より入山していた遠山パーティの出迎えを受ける。ここで作野氏のアクシデントの事を知り、へりて富山市民病院に入院した事を知る。

タイム：大町 5:15 → 室堂 8:30 / 9:00 →
真砂岳 12:00 / 12:35 → 内蔵助平 14:05 / 14:20 →
ハシゴ谷を越え 15:15 / 15:45 → 真砂沢
ロッジ付近 16:30



5月4日

急処下山する事になった遠山パーティは早朝4時頃出発してゆく。後登パーティは気乗り薄の菅沼氏が残り、他は長次郎谷に向う。ハッ峰と源次郎尾根に挟まれた長次郎谷はアルペンムード一杯だ。今日も快晴で、照り返しでうだるような沢の中も、やたら長い休みをとりながら登る。コルに着く頃には脇の沢から小さな湿雪雪崩や、小さな避難小屋程もあるようなブロックが落ちて長次郎谷のノドの辺りを流してゆく。スキーを付け下り始めるが、登りの足跡やシリセードの溝、そして暑さでグサグサになった雪は時々手強い。手塚さんによれば過去最悪の雪質との事。ノドの所は左岸の尾根から避けて本流に滑り込む。デブリで脚がカッターくなるが、雪質の良さそう？な所を拾いながらテント場まで滑る。一人残った菅沼氏は結局、小窓雪渓を滑って来た。

タイム：テント場 6:45 → 途中休憩 95分!!
→ コル 2830m 1:20 / 12:00 → 長次郎谷出
合 13:20 / 13:30 - テント場 13:35

5月5日

前日の菅沼氏の話から、今日は先ず小窓雪渓に向う事になった。近藤岩までスキーで下り、狭くて両側から所々ブロックやデブリの散乱する此股を過ぎると、沢中もぐっと開け、真白？な雪面が広がる小窓雪渓に出た。前日の菅沼氏のシュプールレールがない斜面とのんびり登る。コルから西仙人谷側は、ちょっと滑れそうもない感じだ。小窓雪渓 出合まで広い斜面を快適に下る。ここから三ノ窓雪渓に向う石垣氏と別れ、仙人山に登る事にする。池の平小屋まではちょっと奥利根源流を思わせる雪原といった感じで長次郎谷等とは対照的である。当初の予定だった小黒谷へ大窓雪渓出合までは充分滑れそうだ。大窓への斜面に取りついた登山者も豆粒のようだ。この頃から上空にかなり雲が出始めて来た。仙人山からは広い斜面を各自思いのままに滑る。

悪雪などものともせず

菅田 菅沼

西川 手塚



三ノ窓雪渓出合に着くと、三ノ窓のコル手前の急斜面でがんばって登っているのが、どうも石垣がうしろ。コルから12分ほど降りてきたのはさすが。テント場に帰り着くと、まわりのテントは殆んど撤収されてびびりした。夕食後20:00頃より暴風雨となる。そのうちドームテントのフライは破れて飛ばされ、ツェルトは何度もポールが倒され、深く差込んだペグ替りのスキーも風雨で飛ばされる始末で、一睡も出来ないうち、結局2:30頃ツェルトを撤収して、水浸しのドームテントに逃げ込む。

タイム：テント場 6:30 → 近藤岩 6:50 / 7:00 → 小窓コル 8:50 / 9:50 → 出合 (1800m) 10:18 / 10:55 → 仙人山 11:50 / 12:25 → 三ノ窓雪渓出合 12:55 / 14:15 → テント場 15:00

一人三ノ窓雪渓を滑る (石垣記)

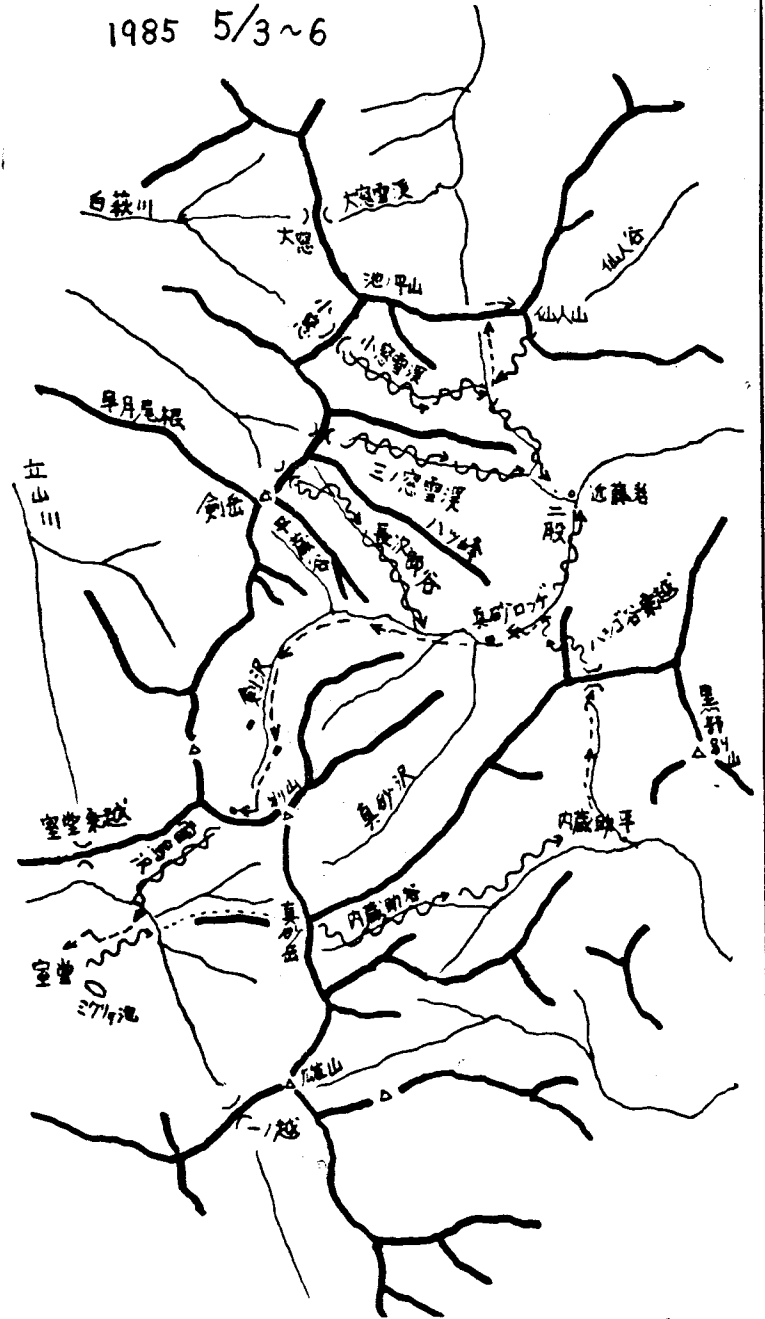
池ノ平へ向かうパーティと分かれ、三ノ窓をめざす。三ノ窓雪渓は、いたるところデブリに覆われ、比較的平坦な箇所を選んでスキー登行。ノンスリップパターン(ソールがうろこ状)の登攀性能は、ここではツールの半分程度。トラバースに近い斜衝行とキックターンの単調な繰り返し。ときおり、ハツ峰上部で起きたなだれが、岩壁に達し、垂となって落下、谷に大音響をとどろかせる。中間部2000m付近で、谷はひろがりを見せ、雪面は両側面に及ぶ、そしてそこからの新しいデブリが整然と連なり、突然ズルズルと動き出す。まるで生きもののような。ノドの手前でスキーをはずし、跡跡をたどる。かなりの急勾配。再び

上部が開け、傾斜が弱まるとコルに達する。待ち合わせの時刻が迫っているため、5分ほど休憩しただけで、滑降にヒリかかる。緩斜面をスムーズにこなし、ノドにさしかかると、シュプールが引き金となり、ズルズルなだれが生じる。突っ切ることも考えたが、場所が場所なのでしばしちゅうちよ。おさまりにかけたところで、わきをすり抜けるように滑降。広い斜面に出る。あとはデブリの間をぬうように小さきみなターン。デブリ自体も軟膏なので、ジャンプターンによる方向転換は可能。パワーが必要な滑りで、足が疲れ息づかいも荒くなる。ときどき小休止して息を整え、ルートを決める。20分で出合に達し、パーティーと合流する。デブリのおかげで、変化に富んだスリルあふれるスキーを楽しめた。

5月6日

明るくなるのを待って剣沢より剣御前小屋まで下山する事になった。全装備がズグヌレて、とてももう一泊する気にはならない。(その時間も無いのが) 風雨の中、テントを撤収し出発する。武蔵谷出合辺りから、また風雨が強まり、ビショヌレの体には、かなりこたえる。時折の突風で立ち止まる程である。途中、剣沢小屋で休憩する。視界が悪いが、剣御前小屋への跡跡も、かなり別山寄りについている余分なトラバースをさせられた。やっと小屋に飛込んで暖かいラーメンで元気を付ける。もうここまでくれば、雷鳥沢を下るだけである。濡れて重くなったザックを背に、ひたすら滑る。

1985 5/3~6



室堂への登り返しから雨に煙る室堂ターミナルに着いた時は思わずバンザイ。あれだけ荷物をもとめて美女平行きのバスに乗込む。富山からは連休最終日で混雑する電車で、立ち、枚しで帰京する。

タイム：テント場 5:30 → 剣沢小屋 8:10 / 9:35 → 剣御前小屋 10:30 / 11:30 → 室堂 13:00 (小森宮記)

0612

19

NO.00114